

## 生涯学習推進計画実施計画 実施計画調査表 課題一覧

【資料3】

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
1 い っ て も 情 報 を 得 ら れ 、 相 談 で き る ま ち づ く り	4	財政情報の提供 (財政課 P2)	より多くの市民に財政について興味を持ってもらうため、難解な専門用語や仕組みをさらにわかりやすく伝える必要がある。	
	5	食に関する情報の提供 及び啓発の充実 (健康づくり支援課 P2)	掲示物・啓発物を作成しているが、対象となる人が少なく、また、講座や検診、食育だより等の講読を申し込むような健康づくりに関心の高い層・年齢が高めの層に限られてしまう。	・若い世代に対する啓発方法の検討 ・出前講座等の利用が少ないため、啓発掲示の中で出前講座の案内を行い、利用者増を目指していく。
	10	都市計画に関する情報の管理・提供 (都市計画課 P4)	・窓口対応時に使用する都市計画図において、地形地物の情報が平成19年度以降更新できていない。 ・来庁者から、都市計画情報をその場で印刷・販売してほしい、またホームページの都市計画図閲覧ページにおいて、スクロールができるようにしてほしい、色を薄くして字が読めるようにしてほしい等の改善要望がある。	
	11	都市計画図等の作製・管理事務(都市計画課 P5)	販売用図面のベースとなるような地形地物の情報が、平成19年度以降更新できていない。	・都市計画の変更を予定しているため、告示後の内容で都市計画図を印刷する。 ・地形地物の情報を更新するため、都市計画基本図修正に向けて、情報収集及び予算要求準備を進める。
	12	景観形成情報発信・啓発事業(都市計画課 P5)	我孫子のいろいろ八景歩きの実施については、参加者の多くが60代以上であり、若い世代の参加者が少ない。	成田線の電車の車窓から見える我孫子市の魅力的な景観を紹介する「成田線八景マップ」を新たに作成する。
	14	住宅情報の総合的情報 (建築住宅課 P6)	住まいに関わる情報件数は年々減少しており、ホームページや広報以外での周知も検討していく必要がある。	各制度を単独で周知するのではなく、関連する制度を合わせて効果的に情報を発信していく。引き続き、市ホームページや広報を活用するほか、関連課等と連携を取りながら、情報を発信していく。
	16	生涯学習情報の発信 (生涯学習課 P7)	あびこ学校ニュースならではの強みや良さを確立していく必要がある。自治会配布が禁止となってしまった現状があり、あびこ学校ニュースを現行の方法で発行し続けることが効果的なのか改めて検討する必要がある。	あびこ学校ニュースの発行形態や内容について再度検討し、より効果的な情報発信の方法を見つけていく。

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
1 い つ で も 情 報 を 得 ら れ 、 相 談 で き る ま ち づ く り	19	図書館における郷土・行政資料サービス (図書館 P 8)	「我孫子市にゆかりの人と作品コーナー」の運営にあたっては、今後も白樺文学館、杉村楚人冠記念館と連携することが欠かせない。また、他の市内文化施設とも連携して展示や資料提供の工夫をしていく必要がある。	郷土資料の買い替えや複本の購入を進め、市役所各課と連携することで、我孫子市でしか入手できない資料を収集・保存・提供できた。我孫子市として後世に伝えていくべき文化遺産を今後も収集・保存・提供していくため、引き続き推進していく。
	20	図書館の情報化推進 (図書館 P 8)	市民の図書予約システムの認知度を向上させる必要がある。	高度なレファレンス（調べもの）に対応するため、外部データベースの導入及びインターネットの活用は必要である。また、電算システムを整備することは、市民サービスの向上につながり、現状どおり推進する必要がある。
	26	図書館カウンターサービス (図書館 P 10)	研修への参加及び個別指導等により、正職員だけでなく嘱託司書・臨時職員のスキルアップを行う必要がある。	市民が学びたいときに学べる学習機会の充実に必要であり、今後も引き続き推進していく。
	27	<b>図書館利用に障害のある方へのサービス (図書館 P 10)</b>	<b>ハンディキャップサービスの利用増に努める必要がある。</b>	<b>様々なハンディキャップがある市民の「知る権利」を保障するためにも、PR等の工夫をして一層の利用促進に努める必要がある。</b>
	29	集団健康教育 (健康づくり支援課 P 11)	集団検診での健康教育のみの効果評価が難しい。	集団検診での健康教育は、定期的に一定人数に啓発できる場であり、内容検討しながら継続実施とする。
	32	石けん利用の推進 (商業観光課 P 12)	我孫子市石けん利用推進協議会委員の高齢化。	
	37	読書普及活動 (図書館 P 15)	図書館市民スタッフ（読書普及担当）と協働し、読み聞かせや読書案内の内容等を充実させる必要がある。	市民の読書への関心を高め、図書館利用を促進するために必要不可欠な事業であるため、今後も引き続き推進していく。
	38	図書館 P R (図書館 p 16)	ホームページの作成、「たんた新聞」等刊行物の企画・編集・印刷等には、作業時間の確保が必要である。	図書館の情報提供及びPRにおいて、ホームページは有効な手段なので、新規利用カード登録者に対するホームページの利用を促進するとともに、利便性の高いホームページとなるよう努めながら、今後も引き続き推進していく。

基本目標	No.	個別事業	課題	担当課の改善・見直し・変更点等
2 生涯にわたってさまざまな学びのできるまちづくり	41	子どもの居場所づくり事業（あびっ子クラブ） （子ども支援課 P 17）	スタッフの年齢層の高齢化が進み、長期休暇等を含めあびっ子クラブを運営するスタッフの確保が難しくなっている。 また、加配児童等に対する保育の質向上が必要になってきたことから現スタッフに対するマネジメントをしっかり行っていく必要がある。新スタッフ確保の際には、心身ともに健全である方、保育の質向上の意欲を持つ方を確保する必要がある。	地域の方々がサポーターとして、チャレンジタイムや子どもの見守りに参加してもらえるようPRをしていく。また、サポーター会議を通して子どもへの対応など意見交換をし、運営に生かしていく。 平成30年9月布佐小あびっ子クラブ開設に向けて準備を行うと同時に、全小学校にあびっ子クラブが開設される30年度を一区切りに、登録料や運営方法等を改めて見直していく。
	42	谷津ミュージアムづくり推進事業 （手賀沼課 P 18）	現在、活動をされているボランティアの高齢化が進んでいるため、会員募集の拡大および活動への参加の呼びかけを強化しなければならない。	
	43	手賀沼船上学習の実施 （手賀沼課 P 18）	定員になってしまった後は全て断っているが、ひとまず申し込んでおいて当日キャンセル、という参加者もいるため、当日空きができてしまうのが課題となっている。	当日の空いている参加枠を少なくするような案があると良いと思われる。
	47	我孫子産農産物の学校給食導入事業 （学校教育課 P 19）	・我孫子産米・我孫子産野菜 我孫子産米・我孫子産野菜の認知度とともに、食に関する選択力、自己管理能力を高めたい。 ・和食の実施 米飯給食、和食給食の推進が食育に寄与していることの具体的な評価が難しい。	我孫子産米・我孫子産野菜を活用した学校給食を教材として、系統的、継続的に食育指導を実施し、児童生徒の興味関心、食に関する選択力、自己管理能力を高めていく。
	50	郷土芸能への支援 （文化・スポーツ課 P 20）	後継者の育成が課題です。	後継者の育成の機会となるよう、今後も継続的に実施する。
	60	手賀の丘ふれあい宿泊通学 （子ども支援課 P 24）	市内小学校の行事との兼ね合いによる開催時期の難しさにより、対象児童が学校行事と重なることにより参加がしたくてもできない状況が浮上。また、スタッフの人員確保など、前年に続き課題となっている。	前年度の『手賀の丘ふれあい宿泊通学』の課題を解消するために、良い部分は活かしながら、新たに『手賀の丘フレンドシップツアー』としてリニューアル。 学校との行事がかぶらないよう、教育委員会と打合せしながら実施時期を決定。1回の参加人数を増やし、年に2回、金曜日の放課後から土曜日の午後にかけて1泊2日、手賀の丘少年自然の家に宿泊する。 自分たちの事は自分たちでやる事で、自立性・協調性を育むことを目的とすること、川村学園女子大学の生徒にスタッフとして協力してもらうこと、また、心理学科の先生による生徒のアンケートなど、事業の目的や円滑に進んでいる内容は継続していく。

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
	61	あびこ子どもまつり (子ども支援課 P 24)	天候によって来場者数が大きく左右される。また、年々参加団体が増えていることは嬉しいが、雨の場合、屋内に入りきれない団体が出てきてしまう。 企画会の主要メンバーの入替も課題となってきた。	おまつり自体がマンネリ化しないように、実行委員会から企画会へ入ってくれる方を募集していく。 長年培われてきたスキルや団体間の交流を大事にしながら継続していく。
2 生涯 にわた ってさ まざま な学び のでき るまち づくり	62	げんきフェスタ (子ども支援課 P 24)	参加費の他にもまつりに来た子どもたちからお金をもらう有料企画の団体や、おまつりの各団体の予算内で無料で提供する団体など、団体間の考え方の違いが生じてきている。	今後も企画・実行委員会できよく話し合い、おまつり自体がマンネリ化しないように協力していく。また、実行委員会から企画会へ入ってくれる方を募集していく。
	65	こども議会 (指導課 P 26)	・隔年開催ということもあり、前回の子ども議会を経験した職員が学校にいない場合があるため、次回に向けての資料の保存と引継ぎを着実に進めるような環境を整えておいていただけるよう学校に依頼する。 ・各学校から出される質問内容については、過去にその児童生徒が所属する学校が過去の子ども議会の中で質問したときに、各部署から回答された内容をよく確認した上で質問を出すようにする。その対策として、今年度は前年度の質問内容について各学校に配付する予定である。また、学校からの要望があれば、答弁書のコピーを配付する。	
	67	成人式 (生涯学習課 P 27)	初めての試みとして行った、新成人の寄せ書きパネルに関しては新成人代表を中心に準備してきたが、当日思うように活用されなかった。職員や新成人代表の声掛けには素直に応じてくれ記入してくれる方も多かったことから、パネル前に職員を1人配置するなどして対応していく必要がある。	成人式企画運営会議では、これまでの成人式の様子はもちろん、近隣市の成人式の様子を積極的に情報共有していく。新成人代表が主体的かつ積極的に企画運営していける環境を準備していく。
	68	熟年備学 (生涯学習課 P 27)	講義がメインの講座なため、受講生での話す場が少なく、仲間作りの機械が少なかった。	平成30年度より「学級生企画」の講座や閉級式には講師を招かず学級生で振り返り学習を行い、学級生同士のコミュニケーションの場を増やす。
	69	家庭教育学級 (生涯学習課 P 28)	下の子ども（乳幼児）を連れての参加者が多く、託児の強化が必要である。	
70	のびのび親子学級 (生涯学習課 P 28)	様々な方法で広報活動をしているが、当学級のこと、募集がかかっていることを知らない方がまだ多くいる。さらに丁寧にPRしていく必要がある。	早い段階から対象児が集まる場所へ出向いてのPR、映像を使つてのPRが行えるよう準備していく。	

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
2 生 涯 に わ た っ て さ ま ま な 学 び の で き る ま ち づ く り	71	アビコでなんでも学び 隊 (生涯学習課 P 29)	夏休み期間中の低学年対象の講座は、特に応募倍率が高い。対象講座を増やし、受講希望に応えられるように努める。	低学年が参加できる講座を増やすため、高学年対象に2回実施してきた「磁石とコイルのパワーを探れ」は、低学年対象のプログラムを増やし、各1回実施。「あら不思議カガミを使わない万華鏡！」は、2回に増やして実施する。また、「あら不思議カガミを使わない万華鏡！」低学年を対象に1回実施していたものを2回に増やして実施する。
	73	成人・青少年への図書 館サービス (図書館 P 30)	資料購入費の減少により新刊図書の購入冊数が限られるが、図書購入については全館調整を徹底して効果的に行う必要がある。	
	74	児童への図書館サービ ス (図書館 P 31)	<b>読書の楽しみ方を知ってもらうためには、各事業のPRの工夫をして、利用を促進していく必要がある。</b>	
	75	子どもの読書活動推進 計画の策定 (図書館 P 32)	策定事務に係る人員体制の確保が必要である。	
	76	男女共同参画講演会の 実施 (秘書広報課 P 32)	会場定員に比べると申込者数が少ない傾向が続いている。講演内容やPR方法を工夫して認知度を高めていく必要がある。	すでに事業として定着しているが、より小規模な講座や連続講習会等、開催形式のバリエーションや開催時期の変更についても検討していく。
	77	平和事業 (秘書広報課 P 33)	リレー講座が始まって3年が経ち、講座の立ち上げメンバーが就職活動等で、参加が難しくなっている。そのため、新たに高校生や大学1・2年生の参加を増やす必要がある。派遣から年数が経ってしまうと、リレー講座等の活動に参加することに気後れしてしまう人もいと考えられるため、いかに活動に参加しやすくするのか、工夫が必要である。	引き続き市民や市民団体と連携して事業を進める。
	78	健康づくりに関する専 門家によるセミナー (健康づくり支援課 P 33)	高齢者の参加が多く、もう少し若い世代にも興味をもってもらいたい。	若い世代の方にも興味を持ってもらえるように、内容やお子さんのお預かりなど検討が必要。
	80	失語症家族教室 (障害福祉支援課 P 34)	参加者数が少なかったため、広報活動を強化する必要がある。	

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
2 生 涯 に わ た っ て さ ま ざ ま な 学 び の で き る ま ち づ く り	81	手話講習会・読話講習会 (障害福祉支援課 P 34)	障害者福祉センターは、交通の便が良くないため、送迎バスを運行した。今後も継続する必要がある。	
	86	遊具うんどう教室 (高齢者支援課 P 37)	市内3ヶ所に設置のうんどう遊具が設置から15年以上経過し、老朽化や破損等による補修・撤去の必要性が多く出てきている。	利用者が安全に使用することのできる環境を整えていく。
	88	消費生活講座 (商業観光課 P 38)	講座内容のニーズの把握と、広報の手法について検討の余地があると思われる。	消費生活相談の内容を参考にしたり、企業からの講師の派遣などを検討している。
	90	栄養教諭・栄養職員を中核とした食育推進事業 (学校教育課 P 39)	食育については、全体的に事業の数値的な評価が難しい。	
	91	出前講座の運営 (生涯学習課 P 39)	出前講座利用件数の減少	利用者のニーズは、状況により変化すると考えられるため、ニーズがないからと一概に削除することは適切でないと考え。 利用者からの問い合わせがあった際は、様々な講座を併せて紹介していきたい。 利用団体の増加に向けて、我孫子市内の学校やSNSを利用し出前講座のPRを行う。
	92	生涯学習普及啓発事業 (生涯学習課 P 40)	卒サラ講座に関しては昨年度実施時に比べて女性の参加も増え、満足度も高い講座を開催することが出来たが、実際参加してくれた方の多くは、既に何かしらの活動をしている方で、退職を機に何か始めたいというような方の参加があまりなかった。	生涯学習普及啓発講座は内容とPRの仕方について検討をし進めていく。
	93	人権教育 (生涯学習課 P 41)	社会人権教育地区別研修会では、研修会の開催日時が学校行事の近くであったこともありうまく参加者を募ることが出来なかった。	引き続き、人権にまつわる研修会については関係職員や関係機関へ情報提供を行っていく。開催日時や周知の仕方については担当者会議等で検討し改善していく。
	94	スポーツ教室事業 (文化・スポーツ課 P 41)	普段スポーツをする習慣のない子どもたちに如何に参加してもらえるか。	

基本目標	No.	個別事業	課題	担当課の改善・見直し・変更点等
2 生涯にわたってさまざまな学びの	99	ふれあい工場の運営管理事業 (クリーンセンターP44)	ふれあい工場の運営スタッフやリサイクル教室の指導に当たる技術アドバイザーが高齢化により集まらなくなっている。 粗大ごみで排出される家具などの木製品が、安価な大量生産品に移行しており、リペアや加工できる質ではないためバザーに出せる製品が減っている。	
	100	新たな文化交流拠点施設整備の検討 (企画課・生涯学習課P44)	他自治体の情報収集等に時間を要したため、29年度内に文化交流拠点施設建設構想案の取りまとめができなかった。	検討状況を平成30年秋ごろに議会や市民に示せるよう、作業を進めていく。
3 多様な学びの場のあるまちづくり	101	地域交流教室の提供 (生涯学習課 P44)	地域交流教室についてはどの学校も、児童の安全確保のために車での来場を禁止しているが、学校側から苦情が入ることがあった。その都度、団体へは注意喚起をしてきたが、近隣の施設への駐車など苦情が絶えない現状がある。	引き続き、車での来校の禁止については、使用団体に注意喚起し、子どもたちの安全確保に努める。
	102	公民館施設管理運営 (生涯学習課 P45)	開館より10年以上が経過し、施設の修繕箇所が多くなっている。総合管理運営委託事業者より長期修繕計画が出されているため、修繕箇所に優先順位をつけながら、計画的予算の確保・修繕の実施を行うことが必要である。	
	110	学校体育施設開放事業 (文化・スポーツ課P47)	体育館利用について飽和状態にあり、割振りの作業が困難を極めている。今後、利用枠の制限等を設定するか検討が必要。	
	113	杉村楚人冠記念館の保存と活用 (文化・スポーツ課P48)	平成28年度は夏目漱石、29年度は南方熊楠の記念の年に企画展を開催することで大きな成果をあげ、また29年度はテレビ放映の効果もあったが、毎年このような機会に恵まれるわけではない。時期をとらえた企画で来館者を確保しつつ、そのような機会に来館された方が再度訪れるように発信を継続していく必要がある。	

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
3 多 様 な 学 び の 場 の あ る ま ち づ く り	115	白樺文学館の運営 (文化・スポーツ課P 48)	・さらなる入館者、イベント参加者の 増加 ・「白樺文学館リニューアル計画」に 基づき、展示・収蔵施設を中心とした 再整備が必要	
	117	移動図書館業務 (図書館 P49)	利用の少ないステーションに対して、 引き続き利用が増えるようPR等工夫す る必要がある。また、状況に応じてス テーションの廃止または移動の検討も 必要である。 現移動図書館車は平成13年7月に車 両を更新してから17年が経過してお り不具合も増えてきた。安全運行のた めにも更新が必要である。	移動図書館車の更新については、助成 金の申請を引き続き行っていく。ま た、学校、高齢者施設などへの移動図 書館車の巡回など、移動図書館の可能 性について検討していく必要がある。
	118	湖北地区図書館の整備 (図書館 P49)	企画課を中心として策定する湖北台地 区の公共施設についての整備方針及び 「我孫子市公共施設等総合管理計画」 に沿って、我孫子市の図書館全体につ いての整備検討を行う必要がある。	今後は、企画課を中心として策定する 湖北台地区の公共施設についての整備 方針及び「我孫子市公共施設等総合管 理計画」に沿って、我孫子市の図書館 全体についての整備検討を行う必要が ある。
	119	図書館会議室及び展示 スペースの提供 (図書館 P50)	会議室については未利用の日もあるた め、一層の利用促進に努める必要があ る。	布佐地区は公民館未設置であることか ら、学習活動の場・地域活動の場とし て会議室は重要である。今後も引き続 き推進していく。
	122	鳥の博物館展示リ ニューアル (鳥の博物館 P51)	展示リニューアル計画を実行する上で の財政的な見通しが立たない。	
	123	手賀沼ふれあいウォー ク	天候が良くないと屋外型イベントのた め、参加者の確保が難しい。	
126	市外図書館・大学・関 係機関との連携協力 (図書館 P52)	全国と同規模の図書館の中でも図書館 間借受冊数は上位に位置し、相互協力 による借受は活発であるが、必要な資 料は揃えることができるよう資料費の 確保に努める必要がある。		
4 と の 学 ん だ る 成 果 を ま ち づ く り す こ	130	アビスター時保育事業 (生涯学習課 P53)	・託児を行う機会の少ない保護者が多 く、託児サービス利用者数が少ない。 ・祝祭日の託児利用者及び市民保育ボ ランティアスタッフ協力者がほとんど いない。	・祝祭日の保育スタッフ事業の廃止に ついて検討する。 ・ホームページ、SNS、チラシ等 による更なるPR推進を検討する。
	134	失語症会話パートナー 養成講座 (障害福祉支援課・障 害者福祉センター P 54)	平成30年度以降、意思疎通支援者の養 成は都道府県地域生活支援事業の必須 事業となったため、市内で啓発を行 い、多くの市民に養成講座の受講を勧 める必要がある。	

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
4 学 ん だ 成 果 を 活 か す こ の で き る ま ち づ く り	135	介護予防サポーター養成講座 (高齢者支援課 P 54)	介護予防強化型きらめきデイサービスにおいて、介護予防活動の定着を図る。	引き続きリハビリ専門職と連携しながら、団体のリーダーを対象に研修会（フォローアップ研修も含む）を開催し、シニアリーダーを育成していく。
	136	子育てサポーター養成講座 (保育課 P 55)	積極的に活動する子育てサポーターは限られているので、子育てサポーター全体への活動の促しと共に、活動の場を広げていく。	
	137	環境レンジャー活動への支援 (手賀沼課 P 55)	環境レンジャーの高齢化が進んでおり、サポーターを増やす手法を模索する。	
	142	市民コンサート (文化・スポーツ課 P 58)	出演者の高齢化が進んでいる。	
	144	文化祭 (文化・スポーツ課 P 58)	運営する人材が、年々、高齢化が進んでいる。	
5 学 び で つ な が る ま ち づ く り	152	学校支援事業の充実 (指導課 P 60)	地域の方々の学校支援ボランティアへの参加が減ってきている。	学校支援地域本部が中心となり、各関係機関・団体、大学・高校と連携しボランティア人材を確保する。 学校の支援活動ニーズと支援活動年間計画を作成する。
	159	公募補助金制度の運用 (市民活動支援課 P 63)	制度の趣旨としては、交付団体に最終的に自立した運営をすること目的としているが、自立した団体は少ない。既得権益的な制度となっていることは今後の課題と考える。	
	161	資源循環型社会に関する市民講座への派遣 (クリーンセンター P 63)	職員減による講師不足、解体工事等に伴う施設見学の一時中止。	
	162	我孫子市創業支援事業 (企業立地推進課 P 64)	「プチ起業コース」を利用した起業者が少なかった。また、これまで市内の女性の起業率が低かった。(女性起業率 全体の約20%)	女性の起業率を高めるため、女性に特化した創業支援を行う。今後は、起業家創出が少なかったプチ起業コースを取りやめ、代わりに女性の交流会などを開催しながら、女性起業希望者や女性起業家が要望している支援策などを模索していく。

基本 目標	No.	個別事業	課 題	担当課の改善・見直し・変更点等
5 学 び て つ な が る ま ち づ く り	168	施設・団体への図書等の貸出サービス (図書館 P66)	団体貸出を継続して実施し、一定の貸出冊数を維持できるよう努める。	
	172	消費生活展の実施 (商業観光課 P68)	参加団体の充実(参加団体数の増加) より興味を持っていただけるテーマの選定 広報の手法	
	176	青少年相談員事業 (子ども支援課 P69)	・青少年キャンプ…実施時期により、熱中症が多発する事やスタッフの参加しやすい時期を考え、開催時期の見直しを行う。 ・青少年綱引き大会…29年度夏に教育委員会より、市内小・中学校の業務改善について話があった。教員の負担軽減を目標に、学校行事を含め、それ以外の行事への参加を見直していく事となった。 校長会にてアンケートを取った結果、綱引き大会はとても良い事業との意見も多かったが、全生徒が参加ではない事業である事や、教員はボランティアでの応援となる事から、見直しの対象となった。	・青少年キャンプ…毎年7月末など夏休み期間に実施していたが、熱中症者が例年多発する事から、30年度から秋に開催の報告で進めていく。 ・青少年綱引き大会…全小学校長にアンケートを行いアンケート結果について青少年相談連絡協議会で検討した結果、平成29年度をもって中止となった。(教員の負担軽減)
	181	キャリア教育の推進 (小中学生の職場体験学習事業) (指導課 P71)	・職場体験学習が単なるイベントで終わらないように、「望ましい『職業観・勤労観』」の形成・確立」につなげるようにする。 ・職場体験学習を引き受けてくれる事業所の開拓・連絡調整等についての教職員の負担軽減。	事業所の開拓・連絡調整、及び事業所への児童生徒の引率に、学校支援地域本部を活用する。
	182	生涯学習審議会の運営 (生涯学習課 P71)	生涯学習推進計画実施計画に位置づけられている事業について施策との整合性や、事業を位置づけるか否かについて見直す必要がある。	審議会の進行の仕方については29年度実施した結果も踏まえて、今後の我孫子市の生涯学習推進を長い目で見て委員の皆様から意見をいただけるように進行方法を検討していく。
184	実習生受入・施設見学 (図書館 P72)	図書館業務には専門的なものもあり、年齢等に応じて、より興味がわくように、実務的な体験プログラムを組む必要がある。		